



令和元年10月1日発行 第6号 生徒数 600名

# 上青木中だより

凡事徹底

～当り前のことが当り前にできる生徒・学校・教職員～

## 他人の気持ちのわかる人になってほしい

校長 小野 毅

9月7日に群馬県前橋市で行われた吹奏楽コンクール西関東大会において、吹奏楽部が銀賞という素晴らしい成績を収めました。地区大会、県大会、そしてこの西関東大会といずれの大会も素晴らしい演奏でした。地域の皆様には、多大な御支援を頂き感謝申し上げます。

昨今、様々な報道等で、いじめの問題が取り上げられています。いじめは良くないことと誰しもわかっていながら、なくならない状況にあります。私にも忘れられない思い出があります。

私が中学1年生の時の出来事です。当時、昼休みに仲間達と鬼ごっこをやることが習慣となっていました。始めの頃は、じゃんけんで負けた人が鬼をする、いわゆる普通の鬼ごっこをしていました。しかし、いつの頃か変わっていききました。どのように変わったかという、じゃんけんで負けた人がある女の子に触ってからスタートするようになりました。〇〇(名前 以下A)菌と言って鬼ごっこがスタートしたのです。私たちはA菌鬼ごっこと称して、しばらくの間鬼ごっこを楽しんでいました。ある日、Aさんの中学2年生のお兄さんから呼び出しを受けました。Aさんのお兄さんは同学年や私たちの学年からも恐れられている怖い先輩でした。Aさんのお兄さんは私たちに「妹をバイ菌扱いしているようだ。すぐにやめろ」と言ってきました。私たちは殴られると思っていたので、言葉だけの注意に安堵しました。そして、Aさんに謝罪に行きました。Aさんは、多くを語りませんが、許してくれました。いま考えると、Aさんのお兄さんが怖かったためA菌鬼ごっこは治まりましたが、そうでなかったら、いつまでも続き、Aさんを深く傷つけたに違いありません。38年も前のことですが、今でも私の心の中にある後悔の念です。

上青木中の生徒には、私のような後悔をしてほしくないと思っています。また、他人の心を傷つけるような行為をしないでほしいと思っています。

上青木中学校では、いじめ防止のために、日々の学校生活を注意深く観察するとともに、学校生活アンケートやいじめに関するアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応に心がけています。また、いじめは、いじめた子、いじめられた子という直接の当事者のほかに、観衆と傍観者がいるとされます。観衆は、はやし立てるなどすることによって、いじめを積極的に是認します。傍観者は、いじめに対して、知らぬふりをしている子どもです。傍観者の中から、いじめの関係を仲裁する役割を果たす子どもが出ると、いじめが抑制されることがあると言われています。いじめを防止するために、こうした仲裁者も育てていきたいと考えています。

ご家庭でもお子様の様子で気になることありましたら、遠慮なく学校に連絡をいただきたいと思っております。